

令和元年度第3回刈谷市地域福祉計画懇話会 議事録

1 日時 令和2年1月16日(木) 10:00~11:20

2 場所 101会議室A・B

3 委員(敬称略)

【出席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
愛知教育大学	准教授	佐野 真紀	会長
刈谷市自治連合会	会長	正木 卓	
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	会長	羽谷 周治	
刈谷市ボランティア連絡協議会	顧問	塚本 秀子	
刈谷市いきいきクラブ連合会	会長	岡本 辰男	
子育てネットワーク刈谷「エンゼル」	代表	箕浦 ひろみ	
北部地区社会福祉協議会ハートの会	会計	酒井 喜代子	
南部地区社会福祉協議会	監査	水谷 さわ子	
中部地区社会福祉協議会	会長	面高 俊文	
刈谷市赤十字奉仕団	副委員長	西尾 實千恵	
刈谷市ボランティア活動センター	センター長	米田 正寛	
刈谷市民	公募	榊山 勇	
刈谷市民	公募	竹上 富彦	
刈谷市役所福祉健康部	部長	宮田 俊哉	

【欠席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
刈谷市社会福祉協議会	会長	杉浦 芳一	
刈谷市子ども会連絡協議会	専務理事	山内 利恵子	
刈谷市身体障害者福祉協会	会長	平野 健司	
刈谷市立刈谷特別支援学校	校長	神谷 建喜	

【事務局】

所属	補職名	氏名
福祉健康部福祉総務課	課長	迫 将一
福祉健康部福祉総務課	課長補佐	山岡 達也
福祉健康部福祉総務課総務係	係長	西村 知余子
福祉健康部福祉総務課総務係	主任主査	前島 康孝
福祉健康部福祉総務課総務係	主事	内藤 佑佳
刈谷市社会福祉協議会総務課	課長	柴田 桂児
刈谷市社会福祉協議会総務課	課長補佐兼人事係長	松浦 章子
刈谷市社会福祉協議会総務課人事係	主事	桑迫 里穂

4 議題

- (1) パブリックコメントの結果について 資料 1
- (2) 第4次刈谷市地域福祉計画最終案について 資料 2
- (3) 第4次刈谷市地域福祉計画概要版（案）について 資料 3
- (4) その他

5 意見・質疑等

【議題1】 パブリックコメントの結果について

※資料1を事務局説明

○会 長 ただいまの説明について質問はあるか。

○委員 A 1点目、全体に言えることだが、例えとして1ページ No. 1を挙げる。「市の考え方」で「考えています」とある。「例えば…する」などのプラスαの例を載せると分かりやすい。2点目、3ページの No. 5「小垣江東小学校」だけか。他の小中学校でも、昔は支援学級、特殊学級といったクラスがあったと思う。そういうものはないのか。交流の頻度はどうなっているか。3点目、4ページの No. 8に「毎年30～50名程度の『学生』」とある。「学生」とは大学生や専門学校生の生徒を指すように思う。4点目、No. 10、「福祉・健康フェスティバル」について、毎年大勢の人が集まり、良いと思う。たまたま同時期に保健センターに関わる行事があったが、皆さんが文化センターだけで帰り、保健センターへの人の流れを作ることができなかった。人が保健センターへも流れるようにしてもらえないかと社会福祉協議会に提案させてもらっているが、そういう状況にならない。人の流れを考えた開催がされるといいと思う。5点目、5ページ。「『地区社協』を活用する」とある。そのためにどのように市として、社会福祉協議会として支援してくれるのか、そういう事も書いておいてほしい。6点目、5ページ No. 13「地区同士が」とある。各地域の地区長が様々な連絡会などで話されていると思う。そのために地域の役員、民生委員・児童委員がどのように動かされるのか、どのように動きたいと思ってみえるのか、が見えるといい。

7点目、No. 15、16 についてだ。例えば私はデイサービスの運営に関わっている。そういう中でお年寄りだけがいる、ということで、寂しい思いをしている。月に1回、小さな子どもと食事をするランチ会を開催し、お年寄りとの触れ合いもしてもらっている。そういうことへの例えば何等かの形で市からバックアップしてもらえるような計画がある、あるいはそれを市や社会福祉協議会として考えている等の事が書いてあればいい。8点目、6ページ No. 18「子ども食堂」について。愛知県としては100を超える数があると思うが、刈谷市として今更調査研究か。「考えています。」ではなく、もっと積極的に運営をしようとする段階であると記載したり、そういう事を支援するから手を挙げてください、という投げかけはできないか。

○会 長 具体的な修正とご意見の2種類あった。修正に関する事では No. 8の「学生」という記載についてだ。小中高生ならば「生徒」で大学生等は「学生」ではないか、というご意見だ。

○委員 A 社会福祉協議会で夏休みに行っているのは、中高生が対象である。

○事務局 学生の件についてだが、中学生や高校生は夏休みを利用して、施設でのボランティアを体験する事と、学校と連携して、という事で、このまま中学校や高校につながりそうだが、「福祉・健康フェスティバル」参画の呼びかけは高校生、大学生がメインになる。このままでは中高生が中心ととられかねないので検討したい。

○会 長 ここはお任せしてよいか。修正を検討するという事でよいか。

○事務局 はい。

○会 長 具体的な要望、意見もあつたが、パブリックコメントの中で答えるには少し具体的に
なりすぎてしまうような気もする。

○委員 A パブリックコメントでは例えば、「…したい」、「…と考えている」というところまで
出さないのか。

○事務局 はっきり決まっているものは入れられるが、考えている段階のものは、ここでは触れ
られない。

○委員 B 今回は計画に対するパブリックコメントの回答なので、考え方の部分だ。この計画に
基づいて具体的な施策を打っていくが、計画ができあがった後のことであり、違う段階かと考
える。

○会 長 ここに書くと予算を付ける必要が出てくる、そこまでは言えないということ
でよいか。

○委員 B 5か年という事で、この5か年の中でこういう事を行っていきたいという考
え方を計画に盛り込んでいる。その考え方に対するご意見に答えるという風にご理解
いただきたい。

○会 長 その他意見はあるか。

○委員 C No. 1、No. 16 についてだ。自治会は非常に大事な組織で、地域福祉や高齢化社会、防災イベントに取り組むのにとっても大切だ。自治会を存続させたいという思いは非常に強いし、協力していきたい。私の所属している組は、組長、副組長、子ども会の会長、副会長、氏子、婦人会、班長から役員会が成り立っているが、担い手がいない。非常に困っている。例えば組長をお願いしても皆さん断られる。若い方は子育て、仕事についていない高齢の人は高齢でできない、働き盛りの人は仕事があるのでできないと断られる。役員をしたくないので、自治会加入率も下がっている。私の組だと 40%台の加入率だ。入っていないと役員もしなくて済むので入らない。「支援体制の充実を図っていきたい」とあるが、ぜひお願いしたい。

○事務局 活動の周知が足りないのもひとつの大きな要因かと思う。組長や氏子さんという役員は何をするのか具体的に分からず、大変そうだから引き受けたくないのではないか。どういう活動をしているか住民の皆さんに知ってもらい、理解を進めることが大事ではないか。理解不足、周知不足は役所もしっかり行っていかねばならない。まずは活動を知ってもらう事に力を入れていきたい。

○委員 C 組に入らなくても何も困らないし、入ることで負担が多くなるので入らない。入らないと回覧板も回らないし、近所付き合いもない。組長などの仕事を伝えることもできない。地域でも考える必要があるし、市も何か対策を考えていただくとありがたい。

○会 長 ご意見としていただく。

○委員 D これは、考え方の問題だと思う。私は民生委員や地区社協の福祉委員会の会長をしている。中学生は非常に積極的にボランティアをしてくれている。異世代、要するにお年寄り子どもで、将棋大会をやったり、クリスマス会をやったり、お盆には夏祭りの招待状を出している。来た方とは交流ができる。こういう交流を実際に行ってもらう時は様々な立場で協力していただいている。地域力と地域との密着、100%ではないが、常日頃から意識している。私はその立場で賛同してくれる中学生、大人や子どもに感謝している。

○会 長 実際に活動として取り組まれているというお話だった。

○委員 A 地域は地域で行っていただけていると思うが、うちのデイサービスがお年寄りばかりの集まりでは寂しいと思うので、ご近所、友達、色々な方たちに声をかけて、遊びに来て、少しでもそういったふれあいの場を、小さい子と親しかいない家庭で祖父母とふれあいが無いのであれば、地域の高齢者といくらでも話ができる、手が握れる、そういう場を作っていきたい。うちを利用してくれる利用者もほっとした顔をしてほしいし、小さな子どもたちにお年寄りと触れ合うという事はどういう事なのかも理解してほしい、少しでも地域のお役に立てればという思いでしている。地域がしてくれないからうちがしている、といった思いではない。一度遊びに来てい

ただければと思う。

○委員 E 自治会の加入率の話が出た。平成 27 年から平成 31 年まで、ブレは 1～2%くらいだが下がっている。現在は全体で 66.8%だ。平成 27 年が 67.9%、28 年が 67.1%、ブレが 1%くらい。それを分析すると、個人宅の方とマンションに住んでいる方の加入率は断然に違う。マンションの多い地区の加入率は非常に悪い。個人宅の多い地域、私の自治会の加入率は 92.8%、ひとつ老人ホームがあり、そこが 120 世帯くらいある。そこは 1 世帯分の自治会費は貰えないので、それを考慮すると 98.8%の加入率だ。一般の老人ホームを除いて、少数の方が加入していない計算になる。そういう状況であるので、一回地区に帰って検討していただきたい。私たちの地区では班長も神社の役も順番制。組は 7 組あるが、その中のひとつは組長が順番制で、自分は何年後に組長が回ってくるか分かるシステムで流れている。そういう事も地区で特徴があるので、地区委員で検討してほしい。マンションの加入率が悪いというのも改善の方法はある。家主さんに共益費の中に自治会費を入れて欲しいとお願いしている。ほとんど共益費に入れてもらっているので、自分の所だけ払えないとなると地区としても恥をかく形になるので、強制的に加入となる。マンションを建てる時から共益費に自治会費を含めてもらう事を進めている。また、加入率が減っている問題は、子ども会でも起きている。いきいきクラブも加入率が減少しており、私どもも一生懸命行っている。

○会 長 各地区の事情があるだろう。地区ごとに発展の歴史があるので、古くからある地域は加入率が高いし、新興住宅街では入ってもらえないという事があるようだ。打開策が見えない中で、頑張っていると思う。フラットに考えると、全国的に自治会を解体しようという動きもある。どうするかと言うと、自治会を一旦解体した上で、必要な機能だけを果たす人のつながりを作ろうという事である。自治会加入を拒否した人たちは何を拒否したかと言うと、市や様々な所から降ってくる多くの役割は放棄する。自分たちにとって必要なものだけ、人のつながりである。例えば地域で祭りをしまし、地域でこの辺は汚れているところがあるから掃除しまし、とか、そういった機能だけを持つ、人とのつながりを作っていけば、参加率は良い。そんなことがある人の新書に書いてあった。そんな例もある。自治会に入るからいい、入らないから悪いということではなく、自治会に何を求めるかという事だ。そもそも自治会とは何なのか。元々は人と人とのつながりだった。つながりをどうつくっていくのか、つながりをつくる方法の一つが地区社協で行っているような、自治会に入っているから、入っていないからでなくて、いろんな人に声をかけて、そこを拠点にして新しいつながりをつくっていくとする。強固な自治会のつながりがある所は、それを求めるお祭り等を行いながら、維持しながら新たなつながりをつくっていくという事だ。また、施設を拠点としながらつながりをつくっていく事も大事だ。ある学会の発表で、関西のある地区の社会福祉法人が集まって、地域福祉について、法人も貢献をしないといけないだろうと、取組が始まった。というのも社会福祉法人は税金を安くされている。ということは、それだけ社会に対して責任を負っていると。どうやって地域に対して返していくかと言うと、法人、施設、事業所という資源を地域に戻して、開放してゆく。保育所、老人ホームであろうが、障害者向けサービスであろうが、全ての法人の事業所、施設が地域に対して活動する。地域福祉の拠点として活動していくのだという考えで、それぞれが地域のつながりをつくるという事を行始めている。地域福祉は色々な媒介であり、各々が地域福祉を目指してどうつながりを作る

か、どう地域に貢献できるかを考えることを進めて行けばいいということが分かった。それぞれの立場で地域福祉にどうかかわっていくのか、ということ。地域福祉というのは、地域福祉計画もそうだが、大きな「プラットフォーム」をつくるという事である。「プラットフォーム」とは、皆さん、インターネットを使われると思うが、例えば、パソコンを立ち上げると、最初にどのページが出てくるか。ヤフーか楽天か。何でもいい、アマゾンでもいいのだが、一つのページを立ち上げると、そこに色んなサービスがあって、自分に必要なものをクリックして情報をみていく。大きな1つのまとまりのようなもの、基盤がある。グーグルでもアマゾンでも楽天でもいいのだが、「プラットフォーム」をつくったところはとても強い。今推進していこうとしている地域福祉は「福祉」という事で地域に強固なプラットフォームを作ろうという風になっている。そこにのっかってくるのは地域資源、自治会や施設、事業所などがあって、それらでプラットフォームをつくろうとしている。そう考えていただくと様々なつながりがつくれるとご理解いただけると思う。

○委員 D 刈谷市の民生委員は 160 人いる。厚生労働大臣から委嘱してもらって従事している。推薦の期間内に 160 人全部集まった。これは市役所、OBの方のバックアップのおかげである。近隣の市はまだ集まっていない。刈谷市はそういう意味で福祉を理解していただいていると思う。ある市から、刈谷市はなぜ 160 人全部集まったのかという質問を電話で受けた。民生委員もなり手がないがそれを超越してご理解いただいているということで感謝している。

○委員 C 1 点目、役員の順番制は私の地区でもあった。しかし、私の例でいうと、子ども会の育成会長をして、その次に組の副組長、次は組長、次は氏子と順番が決まっていた。ところが、子ども会に入る人が少なくなってしまう、今は子ども会が危機的状況で、加入者がいなくなるのではないかという事態になっている。子ども会の会長をする人がおらず、人数が少ないので何回も行う事になる。そうすると子ども会長、副組長、組長、氏子の順番が崩れてしまう。2 点目、マンションやアパートは、確かに加入率は低いが、個人宅でも加入しない人が増えている。自治会も危機的な状況であり、市の方にも考えていただきいのだが、自治会にこだわらず、例えば防災なら防災の組織、そういった考え方も将来的にはあるのではないか。自治会がなくなる可能性もある。役員をやりたくないから自治会に入りたくない、役員や組長をやるなら組を抜けます、という人が実際に出てきている。自治会が崩壊の一途になっているので、自治会に代わる組織をある程度考える必要がある。

○会 長 地域福祉計画の間ではあるが、自治連合会の会長もいらっしゃっているので、ぜひ、自治連合会でもサポートをお願いしたいと思う。

○委員 E 言われることはよくわかっている。

○会 長 では、次第 3 の協議事項「第 4 次地域福祉計画最終案について」にうつる。

【議題 2】 第 4 次刈谷市地域福祉計画最終案について

※資料 2 を事務局説明

○会 長 質問はあるか。

○委員 A 1点目、P.79「街なかで移動に困っている人や助けを必要としている人を見かけたら、移動の補助をしましょう。」とあるが、「移動」だけでいいのか。「手助けをしましょう」ということか、あるいは「声を掛けて助けてあげましょう」の方がいいのではないか。これは概要版も同様だ。2点目、社会福祉協議会のあいさつ文について、4段目「少子高齢化の急速な進行や地域のつながりが希薄し、」とある。「希薄化し、」ではないか。そこが気になっている。

○会 長 2点目のあいさつ文の所はおっしゃる通りでいいと思う。1点目について、手助けするのは移動だけではないが、手助けは難しい。例えば精神障害でパニックになっている人に一般の人が声をかけられるかという、そういう支援はできにくいと考える。確かにいろいろな支援があるが、こちらはどういう意図でこのようにしたのか。

○事務局 これは「施策の方向」が「誰もが住みやすい都市環境づくり」ということで、交通や公共施設に関する事で「移動」となっている。もちろん移動だけではないが、このページでは「移動」が適正と考えた。

○委員 A あえて「移動」という言葉が無くても、助けてあげましょう、という言い方がスッと入る。事務局の意図はわかる。

【議題3】 第4次刈谷市地域福祉計画概要版（案）について

※資料3を事務局説明

○会 長 ご質問等あるか。

○委員 F 1点目、概要版 P.1「計画期間」が書いてある。令和元年、令和2年等が黒丸になっている。この黒丸が1年を表しているのか。「第4次」を見ると、2020年、令和2年にかかっていない。期間は幅で表さないと理解しにくい。本編でいうと、P.4は「何年から何年まで」というのが書いてないと、上の年度でそれを読み取ることは難しい。再検討をお願いしたい。2点目、確認とお願いだ。福祉計画というと大体、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉が3本柱になると思う。今回の刈谷市地域福祉計画は、高齢者福祉、障害者福祉は具体的に名詞がたくさん出てくるが、児童福祉に関わる言葉がほとんどない。全体の計画の中でやるということは読み取れるが、子育てや子どもに関する具体的な項目が無い。子ども・子育て支援事業計画でしっかりカバーしていただきたい。私は孫が増えていて、孫の母親が仕事を持っている。一番困るのが病児保育ではないか。刈谷市を含め、大都市以外は殆ど病児保育の体制が進んでいない。仕事を持つ女性は子どもが優先であるので、会社から電話があったら帰らなければならないが、会社側からすると無責任だから給与を下げてやろうということになりかねない。非常に由々しき話である。次に、緊急性が高いという点で、防災について。いつ起こるかわからないから、緊急性が低い

ではないかという声もあるが、明日起こるかもしれないから緊急性が高いという声もある。福祉防災、特に要支援者に対しての問題、避難所などの準備が始まっているが、避難所での受け入れ体制、福祉避難所にどのように運ぶかというシミュレーションが全く手つかずだ。明日地震が発生すれば障害者は立ち往生だ。防災の事務局と連携をとってしっかり準備を進めていただきたい。この中にも福祉避難所や福祉施設の防災体制の整備が入っている。具体的にどう、いつ、いくら予算を付けて、どう進めて行くか。今後具体的な個別計画づくりに入ってもいい。緊急性の高い順に早く着手していただくとありがたい。認知症対策もある。今年中に 75 歳以上の認知症を発症した方の人口が、小学校に在籍している日本全体の小学生の人口を超えるそうだ。大きな変化である。75 歳以上の 5 人に 1 人が認知症。そういう時代を想定した時に、今の刈谷市は遅れている、高齢化率が進んでいないので安心だが、人口が少ない山間の地に目を向けると危機的状況になっている。事務局としてそういった地域の対策を学んで準備する必要がある。間違いなく 5 年から 10 年の間に刈谷市もそうなる。今のうちに準備をお願いしたい。

○事務局 図については、今、委員の話を聞いて、4 年と捉えられてしまうこともありうると思った。一度、分かりやすくどのように変えるかを検討する。

○会長 他にご意見が無いようなので、概要版については検討いただいた上で決定する、ということにしたいと思う。

【議題 4】 その他

○事務局 いくつかご報告申し上げます。今後の予定について、市民だより 3 月 15 日号でパブリックコメントの結果を公表。紙面の都合があり、一部抜粋での掲載を行う。4 月 1 日号で計画の策定について公表する。同時期に市のホームページにも公表する。計画書は、本日いただいたご意見等を含め、文言の修正や誤字脱字の確認などを事務局で検討、修正した上で印刷製本作業に入る。本日晒したものと最終的に若干言い回し等変わる可能性があるが、大きく内容を変更する予定はない。計画書が完成し次第、委員の皆様へ送付させていただきます。次に任期について、この懇話会の任期は委嘱から 2 年だが、本日をもって一旦区切りとさせていただきます。次年度以降、開催時期は現段階未定だが、本計画の推進部会を立ち上げる際には改めて関係団体の皆様にご依頼をさせていただきます。今後ともご協力をお願いする。よろしくをお願いします。

○福祉総務課長 私からあいさつということで、2 年間に渡り第 4 次刈谷市地域福祉計画策定に際しご意見、ご協力に感謝申し上げます。第 3 次の計画の時にも係長として携わらせていただいた。その時にも 6 つの重点的な取組を挙げていた。特に地区社会福祉協議会の設立等を重点的な取組として説明させていただいた。今年度、地区社会福祉協議会と、未設立な所もあるが福祉委員会の設立も進んでいる。第 4 次は重点的に取り組む事項の中でも特に地域福祉活動を活発化させるという意味で、地区社会福祉協議会の福祉委員会の支援と、担い手の部分についても施策を進めていきたいと考えている。計画はこれで策定されるが、その後の進捗管理や目標の達成など、施策の推進も重要となるので、計画策定後もお気づきの点があればご指導のほどよろしくをお願いします。

○社会福祉協議会総務課長 2年間、委員の皆様、多くのご意見をいただき感謝申し上げます。昨年、地域を語り合う座談会にも参加させていただいた。今日の会議の中でも、地域活動の担い手不足、集いの場、相談の場の充実、災害時の不安等の多くのご意見をいただいた。実際に担い手不足の所で、私も昨年度2年間氏子をしていたが、地元でこなしている。担った者にしか分からない苦労もあるが、それなりの達成感もあったので、ぜひ参加いただければありがたいと思う。課題を盛り込み、計画が策定されるのだが、ゴールではなく、いよいよスタートとなる。駅伝で言うと、中継地点に来たのかなと。第4次計画にタスキをつないで、前に進んでいかないといけない。社会福祉協議会は市民と密接に接する、市と違う立場になるが、これまで地域福祉活動計画として地域福祉推進のために活動してきた、今、市と一緒に計画に基づいて、地域福祉の推進のために、活動していくことが我々の使命だと考えている。今年度北部、中部、南部の各地区社会福祉協議会も設立されたということもあり、どんどん積極的に地域の課題解決に向けて取り組んでいきたいと思っているし、皆さんのご協力がますます必要となってくる。計画策定にご協力をいただき感謝している。これからもよろしく願います。

○会 長 この後の計画の本冊及び概要版の修正については事務局へ一任させていただきたいと思う。その他、ご意見等や連絡等あるか。これで地域福祉計画が策定されて推進されることになる。この計画の作成にあたり、様々なご発言があった。自治会の役員の成り手がなとか、そういった地域の事情、デイサービスでの異世代交流、地区社会福祉協議会、自治会と連携しながら進めていく事も報告された。地域福祉計画を走らせていくと、大きな「プラットフォーム」をつくっていく事になる。刈谷市全体として行うので、各地区自治会、地区社会福祉協議会、うまくいく所もあるが、いかない所もある。全体のプラットフォームを作っていくという中では地区の広域連携も大切だ。委員Cは困った事が多いようなので、ここに来られている様々な力をお持ちの方が何かアイデアをお持ちかと思うので、連携して刈谷市の地域福祉を実現していただければと思う。もちろん私もそこに関連してよろしく願います。それでは以上をもって「第3回刈谷市地域福祉計画懇話会」を閉会する。